

日本語の熟語における木偏を持った漢字の意味拡張の分析

(意味およびその形態から見る)

イメルダ

0342022

日本語の熟語における木偏を持った漢字の意味拡張の分析

序論

日本語は、文字を多く持った言語だとよく言われる。ちなみに、日本語には、本来の日本語、つまり和語を書き記すひらがな、外来語、つまり外国語から借用した言葉を書き記すカタカナ、そして中国から借用した漢字がある。漢字は事物の形態を摸倣して簡略に作られた文字である。例えば：



漢字は単独で使われる以外、その字の意味を表す部首として使われる。部首には、三水、草冠、言偏、木偏等のようなものがある。

各漢字に含まれた意味は、それが他の漢字と合成する場合、つまり熟語になった場合、新しい意味を生み出すのである。

本論文は木を部首とした漢字、つまり木偏を持った漢字の熟語の意味拡張を分析するものである。

本論

木偏を持った漢字の熟語の意味拡張を、形態論および意味論の立場から見るので、まず形態論および意味論が何であるか見てみる。

形態論は語および形成過程を研究する言語学の分理で、その研究対象としては語および形態素である。形態素は、意味を持った言語の最小単位、それより分解することのできないものである。その種類として、自由形態素、拘束形態素、内容形態素、機能形態素がある、熟語はいくつかの形態素を結合させてできたものである。

一方、意味論は意味を研究する言語学の分野で、研究対象としては語；句；節の意味、語と語の意味関係である。

本論文のテーマは形態素および意味関係と深く関わっている。つまり、熟語における部首。木偏を持った漢字の形態素およびその意味と関わっているのである。例を挙げてみると、「看板」というものがある。これは動詞で、熟語では拘束形態素になっている「見る」と、名詞で拘束形態素になっている「板」からなっている。それぞれの文字通りの意味にとれば、単に「板」を「見る」ということになるが、現在理解されている意味とは、異なっているのである。

現在看板は、板に家名あるいは、店の名前を書き、家店の前に吊すか分けるものである。それが見る人々に家名.店名を知らせる役割を果し

ているのである。それによって、この熟語には意味が拡張しているのである。

結論

部首木偏を持った漢字の熟語の意味を分析してみた結果、次結論を引き出すことができます。木偏を持った漢字が常に木と言う要素と関係があるわけではないのである。それは熟語になると、それがそれと組み合わせられた漢字の意味に影響される場合があるからである。

DAFTAR ISI

LEMBAR PENGESAHAN	i
KATA PENGANTAR	ii
DAFTAR ISI	v
BAB I PENDAHULUAN	
1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 Rumusan Masalah.....	5
1.3 Tujuan Penelitian.....	5
1.4 Metode dan Teknik Penelitian.....	5
1.5 Organisasi Penulisan.....	6
BAB II KAJIAN TEORI	
2.1 Morfologi 「形態論」	8
2.1.1 Morfem 「形態素」	8
2.1.2 Pembentukan Kata dalam Bahasa Jepang.....	9
2.2 Semantik 「意味論」	10
2.2.1 Jenis-jenis makna.....	11
2.3 Kanji.....	12
2.3.1 Sejarah Kanji.....	12
2.3.2 Pembentukan Kanji.....	14
2.4 Bushu 「部首」	16
2.5 Kihen 「木へん」	17

2.6 Pembentukan <i>Jukugo</i>	17
2.6.1 Cara Baca <i>Jukugo</i>	17
2.6.2 Hubungan Arti <i>Jukugo</i> dari Dua Huruf.....	18
2.6.3 Pembentukan <i>Jukugo</i> Lebih dari Tiga Huruf.....	20
BAB III ANALISIS PERLUASAN MAKNA KANJI BERBUSHU 「木」 ～ ㇿ PADA JUKUGO BAHASA JEPANG	
3.1 Analisis Perluasan Makna pada <i>Jukugo</i> dengan Dua Huruf Kanji.....	23
3.1.1 Kayu.....	23
3.1.2 Pohon.....	
32	
3.1.3 Hutan.....	38
3.1.4 <i>Jukugo</i> yang Memiliki Arti Lain.....	41
3.2 Analisis Perluasan Makna pada <i>Jukugo</i> dengan Tiga Huruf Kanji.....	
48	
3.3 Rangkuman Analisis.....	54
BAB IV KESIMPULAN.....	55
SINOPSIS.....	vii
LAMPIRAN.....	x
DAFTAR PUSTAKA.....	xxv
RIWAYAT HIDUP PENULIS.....	xxvii